

## 九条への思い

## 核戦争と変わらない原発は永久に放棄を

川間九条の会 ミツ橋トキ子

3・11福島第一原発の爆発事故により、福島県の子供たちやその親御さんは放射能汚染、被ばくの不安に苛まれています。憲法九条の一節に『国権の発動たる戦争は(中略)これを永久に放棄する』と謳っています。ならば、国策(国権)として、原発を推進(発動)してきた政府と東電の責任は重大で

あるといえます。さよなら原発1千万人アクションでの武藤類子さん(廃炉アクション)の悲痛な訴え!より『・真実は隠されるのだ・国は国民を守らないのだ・事故は未だに終わらないのだ・福島県民は核の実験材料にされるのだ・莫大な放射性のゴミは残るのだ・大きな犠牲の上になお

原発を推進しようとする勢力があるのだ・私たちは棄てられたのだ・私たちは疲れとやりきれない悲しみに深いため息をつきます』私も、同じ会場でこの言葉を耳にしたとき、怒りとやりきれなさに胸が熱くなりました。いま、私に出来ることは【脱原発署名1,000万筆と福島集団疎開裁判署名3万筆】をただ、ひたすら集めることです。

## 今月の予定

- 11月9日(水) 4時~5時 梅郷駅  
「サヨナラ原発署名行動」
- 11月12日(土) 2時~4時 櫛のホール3階多目的室  
ビデオと定例会(欧州放射線リスク委員会のバズビー氏の来日時ビデオを30分視聴)
- 11月6日(日) 1時~ 南部梅郷公民館 DVD上映  
主催野田南九条の会  
「花はどこへ行った」「枯葉剤の傷痕を見つめて」

## 憲法が危ない! 「憲法審査会」始まる

十月二十日から始まった国会でとうとう憲法を変えるための、「憲法審査会」が設置されるという。民主党は4年前国民投票法の成立には反対してきたのに、野田政権になって態度を変えたのです。それも国会審議で自民・公明両党の協力を得たいからだということです。国の根幹

に関わる「憲法」をこんな取引に利用するとは。まだまだ審査会ができていただけだと安心しては居られません。自民・公明・民主が賛成してしまえば一気に国民投票に・・・ということになってしまいます。注目して行動を起こさなければなりません。

## 11/23 映画

## 「ミツバチの羽音と地球の回転」

野田・九条の会の最大イベント秋の催しは、今年は映画です。瀬戸内海に浮かぶ祝島の人々、ひじきの刈り取りシーンから始まるこの映画は、対岸にできる上関原発に反対して多額の原発マネーも突き返し、漁業と農業で生きていこうとする人々のたくましく本音で生きていく生活を撮ったドキュメンタリー映画です。午前と午後、場所を変えて2回上映します。ぜひ観に来てください。

この映画のチラシと野田・九条の会のアピールを裏表に印刷して11月中旬新聞四紙に折り込みます。新聞に折り込めない関宿地域の配布を手伝ってくださる方募集しています。下記連絡先までご連絡ください。

## 11月23日(祝日)

- ① 中央公民館 10時から
- ② 南コミセン 14時から

協力券 大人700円 18歳未満300円

(九条通信の配布者が持っています)

連絡先 7129-4297 (田口)

# 九条の眼

今年も余すところ2ヶ月。3月11日からもう8ヶ月近くの月日が経過しようとしている

るのですね。それでもあの震災の被害はあまりにも甚大で、福島の方々はもとより、関東に生活する私たちも1日として原発事故による放射線の恐怖から逃れられない日々を過ごしています。これを書いている10月20日（木）の東京新聞 Web 版には次のような記事が掲載されています。

「埼玉県が10月19日に発表した本年産の埼玉県産狭山茶の検査結果では、放射性物質が濃縮しやすいとされる早摘みの若芽以外を使用した銘柄でも、放射能汚染が進んでいた実態が明らかになった。国の暫定規制値（1キログラム当た500ベクレル）を超える放射性セシウムが検出された計97銘柄は、若芽が使われていなかった。県は『特に山沿いで生産された銘柄が多い』と指摘。上空の放射性物質が山で遮られて落下した可能性もあるが、原因は不明という。」

おそらく来年になっても放射性物質に汚染された食品のニュースが毎日のように私たちの目に飛び込んでくるのは間違いの無いことでしょう。

## ■ 原発に頼らない安心できる社会をつくらう！

今年の4月1日、信用金庫では預金量が日本第2位の大手である城南信用金庫の Web サイトに「原発に頼らない安心できる社会へ」という以下のメッセージが掲載され、その明確な脱原発の訴えは大きな反響を呼びました。こういう会社があるのを知ると元気が出ますね。

『東京電力福島第一原子力発電所の事故は、我が国の未来に重大な影響を与えています。今回の事故を通じて、原子力エネルギーは、私達に明るい未来を与えてくれるものではなく、一歩間違えば取り返しのつかない危険性を持っていること、さらに残念ながらそれを管理する政府

機関も企業体も、万全の体制をとっていなかったことが明確になりつつあります。

こうした中で私達は、原子力エネルギーに依存することはあまりにも危険性が大き過ぎるということを学びました。私達が地域金融機関として、今できることはささやかではありますが、省電力、省エネルギー、そして代替エネルギーの開発利用に少しでも貢献することではな

いかと考えます。そのため、今後、私達は以下のような省電力と省エネルギーのための様々な取組みに努めるとともに、金融を通じて地域の皆様の省電力、省エネルギーのための設備投資を積極的に支援、推進してまいります。

- ① 徹底した節電運動の実施
- ② 冷暖房の設定温度の見直し
- ③ 省電力型設備の導入
- ④ 断熱工事の施工
- ⑤ 緑化工事の推進
- ⑥ ソーラーパネルの設置
- ⑦ LED照明への切り替え
- ⑧ 燃料電池の導入
- ⑨ 家庭用蓄電池の購入
- ⑩ 自家発電装置の購入

## ■ おかしなことに黙ってちゃ駄目！！

多忙で疲れ切っていると考えることさえ面倒になりますね。「もうどうなったって、かまやしない」という気分になります。でもちょっと、ちょっとだけ考えてみてください。

あんなに膨大な被害を出した東電がなぜ潰れないんだろう？東電の幹部は給料を減らされたって言うけれど、社長の年収なんか半分に減らされたって3600万円！！今年も社長を始め幹部連中は数千万円の報酬を手に入れている。おかしいじゃありませんか！これまで手にした数千万円（いや数億円かな？）を福島の人達のために差し出すべきでしょう。それが人間と言うものじゃないか！リストラで非正規の人の首を切ったりするんじゃないよ！

そして私たちを待っているのは、電気料金の値上げなのですよ。

おかしいじゃありませんか！！黙っていないで、おかしいことには声を上げましょうよ。黙っていないで！（けやき9条左巻）